

文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業
「第三の道…医療革新を専門とする医師の養成」

医療ライフサイエンス領域における 機器開発の現状と展望

内視鏡、顕微鏡において医師、研究者と共に目指して来た革新とは

平成26年7月3日(木)
17:00~18:30
金沢大学 十全講堂
(宝町キャンパス)

申込
不要

参加
無料

特別講義

この講義は
他専攻up-to-dateセミナーと
して単位(90分:0.2単位)
を認定します

対象 ● 金沢大学大学院生、学類生
教職員、病院従事者
学外の「医療革新」に興味・関心のある大学生
一般社会人等
主催 ● 金沢大学医薬保健研究域



講師
オリンパス株式会社
研究開発センター 研究開発統括室
理事・研究統括

唐木 幸子 氏

《略歴》

1978年 金沢大学薬学部製薬化学科 卒業
オリンパス光学工業株式会社(当時)入社、研究開発本部研究員
1985年 ジョンス・ホプキンス大学医学部細胞生物学科 派遣(~86年)
1988年 東京大学医科学研究所 研究員(~93年)
1994年 東京大学大学院医学系研究科より博士号(医学)取得
2004年 日経ウーマンオブザイヤー2004 大賞受賞
2005年 オリンパス株式会社 研究開発センター 基礎技術部長
2006年 文部科学省科学技術・学術審議会委員(~12年)
2006年 九州大学工学院 非常勤講師(バイオエンジニアリング)(~09年)
2010年 同社 研究開発センター 診断技術開発部長
2011年 第2回津田梅子賞受賞
2014年 現職 研究開発センター 研究開発統括室 理事・研究統括

医療ライフサイエンス領域における機器開発は、近年の分子生物学をはじめとする科学の進化と、デジタル化などの理工学/エンジニアリングの革新により急速な発展を見せており、今後、ITソリューションの発達によって一層、開発競争が激化することは必至である。

本講義では、機器市場における国際競争力の低下と言われる日本国内において、世界初のイノベーションを実現して来た『内視鏡』と『顕微鏡』を実例に取り上げて、臨床医療に携わる医師や先端研究に取り組む研究者と、企業における光学や精密工学などの技術者が密に連携して実用化を推進した成果を振り返る。また、『早期診断・低侵襲治療』や『幹細胞(iPS細胞、ES細胞)を用いた再生医療研究』等の医療ライフサイエンス領域のトレンドを通して、臨床医療と最先端の科学研究の間の橋渡しとなるプロセスの重要性を考察する。

更に、上記における現在の技術開発上の課題を分析し、今後の医療ライフサイエンス機器開発における産官学連携の促進、活性化について展望したい。



内視鏡が適応する生体内部位の拡大



生物顕微鏡の歴史と革新

お問い合わせ

金沢大学医薬保健系事務部学生課内 メディカル・イノベーションコースプログラムマネジメント室
〒920-8640 金沢市宝町13番1号 TEL: 076-265-2869 FAX: 076-234-4208 E-mail t-mirai@adm.kanazawa-u.ac.jp